令和から走り出す平和

～二度と同じ過ちを犯さぬために～

2-C

僕は沖縄に行くにあたり第二次世界大戦の沖縄戦を調べる中で村民の防空壕であった「チビチリガマ」と「シムクガマ」を知りました。そこで、現地の方にインタビューをし、実際にその2つを見学して、自分なりにまとめました。

沖縄戦とは？

1945年3月26日～6月25日南西諸島に上陸したアメリカ軍と日本軍の間で起った戦い。アメリカ軍は読谷村から本島へ上陸し、4月5日までに北中部一体を制圧した。

6月23日に日本軍の牛島司令官らが自決し7月2日には沖縄戦終了を宣言9月3日に降伏調印式が行われ沖縄戦は終決した。

チビチリガマとシムクガマ

「ガマ」というのは自然洞窟のことで、沖縄戦時には村民が米兵に見つからないよう隠れるための場所に使われました。しかし、どちらのガマも米兵に見つかってしまいます。

この時チビチリガマでは避難者の集団死が起こりましたがシムクガマではこのような惨事がなく、避難者全員の命が助かりました。

～この「生」と「死」を分けたのは一体何だったのでしょう？～

アメリカが本島に上陸した4月1日米兵が銃を構えシムクガマに入っていきます。避難者は恐怖のあまりうろたえ、洞窟内は大混乱に陥りました。

その時洞窟内にいたハワイからの帰国者比嘉平治さん(42)が「アメリカ人は人を殺さないよ」と避難者を説得し、傷病者を一人も出さず、投降へと導きました。

シムクガマ
～天然の鍾乳洞で総延長2570メートル

この明暗を分けたのは リーダーの違いだった!!

明 シムクガマ

暗 チビチリガマ

4月2日ごろからガマも米兵に発見されてしまいます。そこで、洞窟内にいた日本軍の教育を受けた2人の看護師は米軍の残虐な仕打ちを恐れ、内親に安楽死の注射の指示をしていきました。2のことから自決の空気が広まっていき、結局避難者140人中83人が無念な最期をむかえました。

「チビチリガマ
～奥行き50m
ごろごろ鍾乳洞

この2つのガマを調べるにあたり、僕は読谷村観光協会の事務局長を務めている比嘉等さん(46歳)にインタビューをすることができました。

比嘉さんは2つのガマを教えてくれた他に米軍基地についても教えてくれました。彼は生まれ育ち共に読谷村で米軍基地となり合わせで生活をしてきたからこそ沖縄と基地との理想的な共存について衝撃的な一言を放ちました。

それは「沖縄と基地の国境であるフェンスをとっぱらってしまえばいい。」というものでした。この言葉について考えたことは平和への道とは境界線で分けることではなくいかにお互いを認め共存していけるかということです。1つの例として、沖縄ではアメリカ軍人の人命救助が数多く報道されているにも関わらず、本島では米軍のマイナスな報道しかされていないということです。これは日本がアメリカにたてている"壁"なのかもしれません。

戦争経験をふまえて真の平和を導くのは沖縄からなのかもしれません。フェンスという国境がある沖縄を知った上で、1人1人が広い見聞を持ち強い実行力を備えていればシムクガマの避難者を救った2人のように新たな考え方で"壁"を壊していけるのではないかと思います。

もう二度とチビチリガマのような誤ちを犯さないために。